12 / 12 食品に関するリスクコミュニケーション(カドミウム)・アンケート集計表(合計)

総合計 参加人数 67名 有効回答 38名 回答率 57%

問1あなたは意見交換会参加者ですか、傍聴者ですか。

	1参加者	2傍聴者
問1	2	36

問2ご自身について、ご回答下さい

	1消費者	2農林水産業	3食品等事業者	4マスコミ関係者	5地方公共団体職員	6その他
問2	6	1	11	3	7	8

問3本日の意見交換会について、何かからお知りになりましたか。

	1厚生労働省・農林水産省のHP	2メールマガジン	3農政局のHP、配布物	4農政事務所のHP、配布物	5その他の行政機関のHP、配布物	6新聞、雑誌等	7その他
問3	27	2	6	1	1	0	6

問4説明内容について、理解することができましたか。

	1理解できた	2だいたい理解できた	3あまり理解できなかった	4理解できなかった。
問4	14	19	5	0

追加問4 - 1説明がわかりやすかったのはなぜですか。

	1資料内容が平易でわかりやすかった	2資料が明瞭で、明確だった	3適切な説明時間が確保されていた	4その他
問4 - 1	11	14	2	2

その他

Q & Aが付いているのが理解に役立った。
専門用語の使いすぎ。

追加問4 - 2説明でわかりにくかった点はどこですか。

	1資料内容が専門的すぎて難しかった	2説明が難解だった	3説明が聞き取りにくかった	4説明時間が短すぎる	5その他
問4 - 2	7	3	11	6	2

その他

カドミウムのリスクがよくわからなかった。高濃度暴露の例についても説明がほしいと思いました。
専門用語の使いすぎ。
資料は手書きでもページ番号をふった方がよい。

問5今回意見交換会を開催したことを、どのようにお考えですか。

	1評価する	2やや評価する	3あまり評価しない	4評価しない
問5	20	14	2	0

問6 意見交換会に出席されて、どのような感想を持たれましたか。

	1わかりやすく情報を提供しようとする行政の姿勢がみられた	2広く関係者と意見交換をしようとする行政の姿勢がみられた	3様々な立場の参加者の意見が聞けて参考になった	4行政の説明や答えぶりは一方的だった	5意見交換としては不十分だった	6その他
問6	9	16	13	3	13	3

その他	これほどさしせまった時期なのが残念。 コーデックスの説明はもっと短くていいのでは。(後で個別に質問を受けるとして)意見交換時間が短すぎる。 今回のテーマは1回では無理。今後何度かやるべき。 丁寧でわかりやすいが、時間のことも考えて行政側の説明(1人分)をもっと簡潔にしてほしい(くどいと感じるところもあった)。 時間を15:15で打ち切らなかったのは評価します。 生産者の意見がなかった。 参加者の主張が冗長で要領が悪い。 傍聴者が沢山いるので、傍聴席に届くような説明に心がけてください。

問7 今後、推進してほしい、食品に関するリスクコミュニケーションはなんですか。

	1多数の参加者が発言できる意見交換会の開催	2食品の安全に関する基礎的な勉強会の開催	3参加者すべてが発言できる少人数の座談会の開催	4各層有識者によるシンポジウムの開催	5意見をいつでも言える窓口の設置	6地方における意見交換会の開催	7その他
問7	21	14	6	9	10	8	4

その他	きちんと議論ができ、消費者の声が反映される意見交換会。説明だけではリスクコミュニケーションになりません。 片寄った意見をもっている消費者や、無知な消費者を教育する場。 消費者団体等の勉強会への行政からの参加(いろいろな専門家の意見もわかりやすく聞けるので)。 行政の本音。

問8 今後の意見交換会で取り上げるべきテーマとして重要と思われるものはなんですか。

	1残留農薬	2動物用抗菌性物質(いわゆる抗生物質等)	3環境からの汚染物質(カドミウム、メチル水銀、ダイオキシン類等)	4天然毒素(カビ毒等)	5加工中に生成する汚染物質(アクリルアミド等)	6ホルマリン	7家畜の病気	8有害微生物(病原性大腸菌、サルモネラ菌等)	9食品表示	10トレーサビリティ	11その他
問8	20	13	20	5	8	3	0	5	15	6	2

その他	厚生労働省と農林水産省が協力できるテーマ。 子供や乳児、胎児への基準。 輸入食品。

問9会の運営等、お気づきの点や感じたことはございましたでしょうか。

カドミウムに対する不安を解消するため、何がしかの行動が必要だろう。

摂取量 数値の意味

コーデックス委員会で審議されている内容

カドミウムの毒性

消費者、生産者の声

以上の内容をわかりやすく解説したシール型パンフレットを作成、米袋に強制添付。

官は調査し蓄積されたデータを出さずに0.4にしたいというだけで、民はそれは嫌だという話にすぎない。農協/農政事務所段階から吸い上げたデータを開示してコントロール不能であることを前提にしなければ「できるなら0.2にして」といわれる。0.2として設定した場合の分別流通コスト、生産コストの増加を加味して米価と供給量を提示すべき。生産者毎でなく圃場毎の分別となる、15年産系統集荷の300万tがかるうじて対応できたとしても、米価は現行の倍になるかもしれない。

日本の土壌改良が難しい現実がわかった。輸入米の比較を見ると、一口で反対するのモどうか。広い農地栽培の良さも一理あり、側面で消費者には価格も考慮され期待している。日本は今年のように便乗値上げが事実で信頼が薄れることもある。

消費者の皆さんは0.2ppmにしると言います。また、情報公開は大切ですが、公開されて0.2を超えた産地の米をその後の年以降買いますか？農家に死ねと言っているようなものでは。

ニッカド電池の他に、廃プラスチックの処理の過程でもCd汚染はあるではありませんか？

98年(97年?)の日本全国のCd汚染データをぜひ公開して下さい。

PRTR制度、骨抜きにしないで下さい。

行政が心配している理由と内容、消費者要求が導く効果と弊害を明示することから始めていく方がよいのではないか。

国内的、国際的基準については、その国の食生活のあり様の違いを考えると、もっと消費者にわかりやすい説明が必要だと思います。また、様々な見方を持った専門家の意見も聞きたいと思いました。

意見交換の時間は十分にとって下さい。

もっと時間がほしかった。そして、もっと早い時期に開催すべきではなかったかと思う。

時間はもう少し長くてもいいのではないか。

今回は食品安全委員会へ食品健康影響調査を行っている時、そして厚生労働省、薬事・食品衛生審査分科会食品規格部会の開催のあとというタイミングのよさであった。今回は今までのリスクコミュニケーションの中では良い方かな。

もっと早い時期に行うべき、12/15のための「やむを得ない」コミュニケーションに浮けとめられかねない。

この問題に関するコミュニケーションとしては、時間がなかったと思います。

技術的説明は主旨を先に伝えてください。

参加者からも発言を文書で提出させるなど、相互理解に努めて下さい。

専門家の参加を広く求めて下さい。

審議会の委員なども参加してもらおうとよいと思います。

消費者団体の方の質問が冗長。前もってまとめた文書を提出してもらったり、流れを整理して分野ごとに質問をまとめておかないと、行政側も質問に的確に答えられず、傍聴者の不安をかえってあおっている。質問に対して、答えが噛み合っていないので、この話し合いを聞いて何がわかったかという実感がわかない。お互い勝手にしゃべっているというだけ。ただ、双方の熱意は伝わってきて、とても良い取り組みだと思ったが。

一部、個人攻撃にいられたような人がいて、聞き苦しかったです。あまり参考になるとは思えませんでした。

意見交換者の質問レベルが非常に低い。あらかじめ学習会を行う、又は書類選考の基準を見直すべきでは。

意見を述べる人が片寄りすぎ。

参加者の意見が感情的でわかりにくい。選定にあたりヒアリングを事前に実施すべきである。

聞く耳を持たない特定の人が話が長すぎる。

香山先生のデータの解析方法について、もう少し統計的な処理の仕方を検討したいと思いました。

消費者団体の生の意見はとても貴重。真摯に受け止めて対応してほしい。

生産者の横にも席を作った方が意見交換が身近になったと思う。

室内温度が高すぎたのではないのでしょうか。環境問題も考えてください。

参加して良かった。

今後も期待しています。

今回いただいたご意見は、担当者に伝えました。

皆様の貴重な時間を割いて参加していただいていますので、時間を最大限有効に使えるよう議事運営に努めたいと考えています。

「農林水産省ホームページのご案内」

リスクコミュニケーション情報については、「食の安全・安心のための取組」(http://www.maff.go.jp/syoku_anzen/shokuhin_risk.htm)に掲載していますのでご利用下さい。

(問い合わせ先)

農林水産省 消費・安全局消費者情報官付リスクコミュニケーション推進班 中山、渡邊、石井

電話番号:03-3502-8111(内線)3334,3335,3338 FAX番号:03-5512-2293